選挙で通った政治家が当選後どう行動するか＝モラルハザード

政治家と官僚

1. モラルハザード＝仕事を代理人に委任したが、代理人が本人の了解している事項と違う行動をとること。プリンシパル=エージェント問題。[経済学](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%AD%A6)の[プリンシパル=エージェント関係](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%91%E3%83%AB%EF%BC%9D%E3%82%A8%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%B3%E3%83%88%E7%90%86%E8%AB%96)（「[使用者](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%BF%E7%94%A8%E8%80%85)と被用者の関係」など）において、[情報の非対称性](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%81%AE%E9%9D%9E%E5%AF%BE%E7%A7%B0%E6%80%A7)によりエージェントの行動についてプリンシパルが知りえない情報や専門知識がある（片方の側のみ情報と専門知識を有する）ことから、エージェントの行動に歪みが生じ効率的な資源配分が妨げられる現象。「隠された行動」によって起きる。

エージェンシースラック＝エージェンシースラックとはモラルハザードを行使する条件、ポテンシャル。モラルハザードとは違う概念。エージェンシースラックを持っている＝行使すればモラルハザードだが、行使しないかもしれない。

本院・代理人関係は持続性が大事。官僚が一つの仕事を民間の企業に委託してもそれは代理人にはならない。

選挙区定数とPの大きさ　地方議会選挙＞国政選挙

選挙区定数が大きいとPが大きくなり、投票率に影響。国政選挙の方が選挙区定数が低い。

心理的効果と機械的効果＝小選挙区制度に選挙制度を変えればそれが２大政党制に向かって行く効果。死票を回避。

小選挙区比例代表併用制では心理的効果は発生しない。

小選挙区制は人口的にでもいいから過半数を作り出してその政党に次の選挙まで政治を任せよう。効率的に政治を進めて、よくなければ次の選挙で変えよう（負託mandate）

＝　小選挙区制はアリーナ型と親和性が高い　ウェストミンスター型

コンセンサス型の民主主義。

アメリカは小選挙区制を取っているがコンセンサス型である。

アリーナ＝小選挙、コンセンサス＝比例代表が必ずしも一致するとは限らない。

分散＝政府支出の中の地方政府支出の割合

分離＝地方歳入中の地方税の割合　財政融合の程度が高い＝地方税（地方独自の税金）が高い。上に行く、高くなるほど分離の度合いが高くなる。

福祉の磁石論　地方自治体が福祉政策を展開すると中位投票者は平均所得以下なので再分配政策により利益を被る→多くの平均所得以下の人が集まるが、それに福祉サービスを提供するために高所得者層に高税率を課すと足による投票により逃げてしまう。そこから底辺への競争が始まる（＝福祉政策をどんどん減らす）

垂直的行政モデル　水平的行政モデル

選挙制度改革がどう少数の優位を変えて行くか

選挙制度が中選挙区制度から小選挙区比例代表並立制。

中選挙区制＝同一政党内での争い→ 党のアピールでなく個人のアピールが有効になる。そうすると、もっとも魅力のあるのは地元に対する貢献、ある利益集団に訴えかける手法＝鉄の三角同盟を維持し、レントを守るという主張である。芋づる方式で投票ゲット。ローカルなレベルでの対立が中央に受け継がれ、派閥争いが生まれる。

小選挙区制＝中位投票者にアピール→小さな利益でなく大きな利益を主張して、少数の優位が崩れる。

有効政党数を得票率に着目して計算する方法と、議席率に注目して計算する方法がある。イギリスは議席率で有効政党数２が継続して二大政党制へ向かっている（機械的効果）。しかし、得票率では有効政党数が４近くまで上昇している。つまり、二大政党制へ向かう心理的効果は薄れている。地方での小選挙区比例代表併用選挙、欧州議会の比例代表制。

政権与党批判票の分散の政権交代への影響

マンデートの交代による政治が変わってきている。

ストルパー・サミュエルソン理論とリカルド・ヴァイナーモデルの関係

自由貿易を行うと各国は自国が比較優位を持っている産業に特化し、世界全体で余剰が高まり各国も利益を得る。

国内で損する人と得する人が出てくる

各国において豊富な生産要素を持っている人は自由貿易によって得をし、希少な生産要素を持っている人は損をする。

労働者が希少で資本が豊富な時資本家が得をして労働者は損をする（外国から労働者が入ってきて労働力が安くなり、資本家は生産を増やして輸出できる）。労働者が豊富で資本が希少の時労働者が得をして資本家は損をする（外国から資本が入ってきて労働者は流出して労働力が高くなる）。

リカルド・ヴァイナー

労働者であれ経営者であれ資本家であれ、輸出に対して負けちゃう産業は自由貿易に反対する（競争力のない産業セクター）。産業セクターごとに勝者と敗者が別れる。

グローバル化

人、金の自由化。

ポピュリズムが何を意味するのかよくわかっていない。